

刻んだシワの1本にも、人生のプライド！ 女たちの性エネルギーが再起動する

第9回トリノ国際女性映画祭  
準グランプリ受賞！



生きていたって、  
わたしたちにセックスアピールしてくれるような  
男をなげりゃ、ね



この年になると、男が少なくなるんだもの、  
早く死んじゃって、さ

# 百合祭

女たちのレトロアパートに  
「光源氏」が引っ越してきた。

浜野佐知監督作品



Y  
U  
R  
I  
S  
A  
I

- 吉行和子
- ミツキー
- カーチス
- 白川和子
- 中原早苗
- 原知佐子
- 大方斐紗子
- 目黒幸子
- 正司歌江

【原作】 桃谷方子『百合祭』（北海道新聞文学賞受賞作・講談社刊） 【後援】 株式会社 北海道新聞社／財団法人 北海道文学館  
 【製作】 株式会社 旦々舎 企画：鈴木佐知子 脚本：山崎邦紀 撮影：小山田勝治  
 照明：上妻敬厚 美術：奥津徹夫 音楽：吉岡しげ美 編集：金子尚樹

日本芸術文化振興会芸術団体等活動基盤整備事業





## 老熟の性愛はタブーか?

「老いるの恋」は、時に微笑ましく受け入れられます。しかし、老年の性愛となると「老醜」「老残」といったイメージが強く、はっきりと忌避、封印されてきました。なかでも女性は、介護やアルツハイマーなど「老人問題」の対象となることが多く、主体的な性愛など、タブーと言っているほど描かれることはありませんでした。

老年女性の性愛を、どこか辛つながら、明るく肯定的に描き出した小説が、この映画の原作『百合祭』です。北海道在住の作家、桃谷方子(ももたけ・ほうこ)さんの作品で、1999年の北海道新聞文学賞を受賞し、2000年に講談社から刊行されました。

登場するのは、69歳から91歳の7人の女性たちで、彼女たちが住むレトロなアパートに、ダンディなお爺さんが引っ越してきたところから、てんやわんやの騒動が巻き起こります。このお爺さん、「男は黙って……」タイプの典型的な日本男性と180度異なり、華麗なレトリックで彼女たちを魅了します。

「花のように艶やかな女性たちに囲まれて、男冥利に尽きます」「宮野さんは、笑顔がいいねえ。菩薩さまのようだねえ」

## 男女の平均寿命のギャップ

この調子のいいお爺さんに、みんなが惹き付けられますが、その背景に、実は青壮年期の恋愛とは環境がまったく異なる、老年の特殊事情がありました。「この年になると、男が少なくなるんだもの、早く死んじゃって、さ」

「生きていたって、わたしたちにセックスアピールしてくれるような男でなければ、ね」

なんとという端的な嘆きでしょう。男女の平均寿命の差という即物的な要因によって、高齢女性はパートナーと死に別れ、孤独を余儀なくされているのです。さらに「お婆さん」にセックスアピールする日本男性となると、絶望的に少ないことでしょう。

## エイジング・ハラスメントを笑い飛ばす

彼女たちの一人は言います。「年をとっていいことなんて、ひとつもありませんよ。年をとった、ということだけで、ないがしろにされるんですから」。年令を理由とした差別、いやがらせが「エイジズム」「エイジング・ハラスメント」ですが、実際に年を

## 《キャスト》

吉行 和子  
ミッキーカーチス  
正司 歌江  
白川 和子  
中原 早苗  
原 知佐子  
大方 斐紗子  
目黒上 幸子  
野上 正義  
大島 圭子(友情出演)  
井川 修司  
中村 英児  
小川 真実  
佐々木麻由子  
斎木 享子  
風間 今日子

## 《スタッフ》

企画 鈴木佐知子  
原作 桃谷 方子  
『百合祭』(講談社刊)  
脚本 山崎 邦紀  
撮影 小山田勝彦  
照明 上妻 敏厚  
音楽 吉岡しげ美  
美術制作 塩田 仁  
美術 奥津 徹夫  
編集 金子 尚樹  
助監督 鬼頭 理三  
制作 松岡 誠  
録音 (有)福島音響  
音楽ディレクター 首藤 歩  
スチール 岡崎 一隆  
監督 浜野 佐知

35ミリ/カラー/100分/2001年



後援 株式会社 北海道新聞社/財団法人 北海道文学館  
日本芸術文化振興会芸術団体等活動基金整備事業

(浜野佐知監督)

ピンク映画を300本超撮った後、1998年に『第七界彷徨 尾崎翠を探して』を自主製作し、一般映画デビュー。同作品の上映運動の中で、ピンク映画やセクシュアルなテーマに関心を示す女性、とりわけ中高年女性のバワフルなエネルギーに感服される。老女の性愛を描いた桃谷方子さんの小説『百合祭』に出会い、映画化を決意。再び、自主製作する。

製作 株式会社 旦々舎

〒156-0052 東京都世田谷区経堂3-24-1  
TEL.03-3426-0820 FAX.03-3426-1522  
e-mail : tantan-s@f4.dion.ne.jp

# 百合祭

とって当事者にならないと、見えにくい壁です。

この映画の老女たちは、それを笑い飛ばすかのように、果敢でエネルギーに満ちています。「可愛いお婆ちゃん」が理想的な老人像のように語られることがありますが、アパートの住人たちは「お婆ちゃん」というイメージの中に閉塞していません。エッチなお爺さんによって、性愛の可能性を示されると、それまでの殻を敢然と打ち破り、行動します。

遠くない将来に「死」が控えている現実が、飾りを捨てた単刀直入の行動に拍車をかけるのかも知れませんが、高齢者差別・<女性>というジェンダーに対する抑圧、という二重のカセに封印されてきた老女の性エネルギーが、生き生きと再起動する様子を、この映画は描きます。

## ストーリー

73歳の宮野理恵さん(吉行和子)をはじめ、老嬢ばかりが住むレトロな洋館の毬子(まりこ)アパートに、ダンディで陽気な75歳の三好さん(ミッキーカーチス)が引っ越してきた。世間からは「お婆さん」としてしか扱われない彼女たちを、立派なレディ扱いして、華やかなリップサービス、時には手を握るなどのソフトタッチも試みる。

これには、長い苦難の人生を歩んできた彼女たちも、大家の奥さん(正司歌江)を先頭に、すっかり



魅惑され、甘い蜜に群がる蝶々の群れのよう。三好さんは、老嬢たちのサンクチュアリのプリンス、光源氏として、一時期君臨する。

宮野さんもまた、すっかり忘れていた体の奥の甘美な感覚を取り戻し、三好さんとセクシュアルな接触を持った。若い頃のセックスとは様相が異なるが、体を重ねた時の柔らかな感触に陶然となる。

しかし、次第に三好さんの意外な過去と実像が明らかになってくる。そして誰もが「自分だけ」と思い込んでいたのに、彼はとんだプレイボーイだった。すべてが明白になった時、彼女たちは驚き、怒るが、いつまでも「騙された!」などと恨み言は言わない。三好さんに触発されるなかで、社会が押しつけ、自分たちも受け入れてきた「お婆さん」の役割やイメージを振り払い、自らの内の眠れる欲望に向かい合ったのだ。そして、いささかの躊躇もなく、果敢に(生き直し)を開始する。なかでも宮野さんと横田さん(白川和子)には、意外な展開が待っていた……。

## 6/14(土)より 待望のモーニングロードショー 劇場初公開! [7/4(金)迄]

AM 10:10 (1回上映)

6/21(土)・22(日)とも浜野佐知監督 舞台挨拶予定

特別鑑賞券 1,200円(税込) チケットぴあ・阪急プレイガイド 阪神プレイガイドなどで好評発売中!

当日: 一般1,500円 / 大学生1,200円 / 高・中・小・シニア1,000円

### 関連情報

6/22(日)AM11:00~PM1:40 浜野佐知R-18作品上映会(女性限定)

▶2作品上映後、浜野佐知監督とのティーチ・イン有り

料金1,200円均一(当日券のみ)

会場&お問い合わせ: 東梅田日活劇場 06(6312)1856



大阪府淀川区十三本町1-7-27サンボードシティ6F  
阪急・十三駅西口より徒歩3分

第七芸術劇場

06-6302-2073  
http://www.nanagei.com/